

第1回(R4.8.17)教育振興基本計画策定委員会 委員からの意見に基づく要検討事項一覧(おおむね発言順に整理)

	発言要旨	要検討事項に対する回答	該当する "まなびの柱"
1	生涯学習と社会教育という言葉の使い分け、言葉の定義が少し曖昧である。生涯学習は、生涯にわたり学習を継続することを意味し学校教育を含むことになるので、学校教育と分けて使用する場合は、社会教育という表現の方が定義との整合性がとれる。	(20)社会教育の推進を追記。	計画全体
2	市の課題を5つ整理しているが、「課題2 グローバル化に伴う国際的な地位の向上に向けて」の内容は、日本の課題としての内容となっている。蒲郡市の課題で言えば、多文化共生の地域社会をいかに創っていくかであり、国際化・グローバル化を踏まえて、蒲郡市が何を大切にしていかに取り組んでいくかを整理していただきたい。	P9の課題2を修正。 (14)、(16)で反映。	(14)日本語指導が必要な児童生徒等への支援の充実 (16)人権教育・多様性理解の推進
3	「子ども・若者相談窓口」が設置されているが、医療機関と連携して対応されているのか。精神的・心理的に傷ついた、危害を加えられた子供が安全に相談できる場なのか。	医療機関については医師会が、精神保健福祉士は障がい者支援センターなどが関わっている。安全に相談ができる場となっている。	(18)いじめへの対応の充実 (19)不登校児童生徒への対応の充実
4	精神的・心理的に傷ついた、危害を加えられた子供が安全に相談できる場なのか。「チャイルドプロテクション」という視点を取り入れてほしい。	子どもの権利について記載をしチャイルド・プロテクションという用語は反映しない。	(16)人権教育・多様性理解の推進
5	「チャイルドプロテクション」、子供を守るという施策は、学校教育、家庭教育、社会教育という分け方では出てこない施策である。違った視点で施策の柱を検討する必要がある。		
6	学校の先生の負担が大きいと感じるので、先生を守らないと子供も守れないと感じている。	(26)、(29)で反映。 先生も守られてはいるが、計画に記載はしない。	(26)学校における働き方改革の推進 (29)学校安全・防災教育の推進
7	市の計画を立てる際に漏れてしまいがちなのが、高校生や大学生、専門学生への支援の部分である。学校外での学習支援も小中学生を対象としたものは結構存在するが、中学卒業後、あるいは高校中退後などの学習支援や、豊田市で実施されている高校生ボランティアスクールといった取組など、高校生や大学生などを支援する施策を計画に位置づけてほしい。	高校生以上の学習支援については若者・未来応援塾で実施。ボランティアスクールについては計画に記載はしないが、設置に向けての調査・研究から進めていく。	(19)不登校児童生徒への対応の充実 (20)社会教育の推進
8	国では、特別な才能を持っている子供を伸ばすという取組が新しく出てきている。また、「特定分野に特異な才能のある児童生徒に対する学校における指導・支援の在り方等に関する有識者会議」での検討結果や中央教育審議会の「令和の日本型学校教育」の構築を目指して」といった方向性について、市ではどのように対応していくのか。	(7)の③個別最適な学びの保障にある適切な進路指導で対応。 国の動向を確認しながら対応を検討していく。	(7)主体的・対話的で深い学びの推進ときめ細かな指導の充実
9	ギフテッドと呼ばれる子供たちや障がいのある子供を含め、いろんな能力を持つ子供がいる。その多様な能力を、多様性を学校でどのように許容していくのか、包摂していくのかという学校づくりの課題でもある。	(16)で反映。	(16)人権教育・多様性理解の推進
10	【発言9の続き】例えば、小学生でも高等学校や大学に行って勉強できるとか、そのような学びのネットワークを作っていくという課題としても捉えることができる。	(20)で反映。	(20)社会教育の推進
11	市の施策に対する市民の満足度の分析の中で、「小中学校の教育内容や環境」は満足度が高く、重要度も高い枠に入っており、同じ枠に「海や山などの自然環境の保護」といった項目もあるので、市では環境問題に関する取組が非常に充実していると見てとれ、SDGsの関連の取組が既に行われていると解釈できる。	(9)で反映。	(9)SDGsの理念を踏まえた教育の推進
12	市の施策に対する市民の満足度の分析の中で、満足度が低く、重要度も低い枠には、社会教育や生涯学習に関する施策が入っており、この分析をもとに、現状満足度が低く、重要度も低い枠の施策の満足度を引き上げるといった、見せ方をすると蒲郡市として重要視していく施策がわかりやすくなる。	(20)(22)(24)で反映。 生涯学習推進計画及び今年度策定のスポーツ推進計画にて推進していく。	(20)社会教育の推進 (22)学校体育・生涯スポーツの充実 (24)文化芸術活動の推進
13	幼小中の連携強化という施策は、どのような連携を指すのか。	(13)、(15)で反映。スクールソーシャルワーカーの設置を進めていく。	(13)特別支援教育の充実 (15)幼児教育の充実
14	幼小中の連携には、特別支援教育を含まないといけないし、そうすると高等学校までを含めた切れ目のない支援体制をつくっていくことが必要となる。		
15	学校施設の防災機能はかなり進んでいるようだが、それを知らない市民も多いと思うので、学校内のみを想定した防災機能ではないことを記載してほしい。	危機管理課で検討をしている。	(25)学校施設・設備の充実 (29)学校安全・防災教育の推進
16	学校の安全・安心の対象には児童生徒だけでなく、先生たちを含めてほしい。	(29)②で反映。	(29)学校安全・防災教育の推進
17	学校教育の施設だけでなく、社会教育の施設も、防災機能の強化であったり、子供も大人も快適に学ぶことができる施設を目指していただきたい。	教育4施設のリーディングプロジェクトが進行している。	(20)社会教育の推進
18	教育目標「感性を磨き、ふるさとの魅力を伝えることができる」について、ふるさとの魅力を伝えるということ、感性を磨くことを一つの目標の中に入れたい方がよい。文化財は、この地域の中で、何千年と暮らしを育んできた歴史であり、文化財に関する施策は教育目標「地域を愛して、地域のために、貢献できる」に盛り込むのが望ましい。	(5)、(6)で反映。	(5)郷土の文化財の保存と継承 (6)郷土愛を育む学習
19	計画でSDGsを取り上げるのであれば、ジェンダーというキーワードは明記した方がよい。	(16)に反映。	(16)人権教育・多様性理解の推進
20	ICTに関して、ICT上のコミュニケーションのこじれによるいじめ問題が起きており、その予防策・セーフティーネットが必要であり、計画に盛り込まれるとよい。	(8)に反映。	(8)情報活用能力の育成とICT活用教育の推進
21	不登校の子供たちへの施策は、教育機会確保法もあって、フリースクールの子供たちも学校の出席として認められることが広がりつつあったり、岡崎市や春日井市では校内へのフリースクールの設置を進めている。多様な子供を受け入れる取組について、蒲郡市でも考えをまとめてほしい。	施策には記載しない。導入の必要性は十分に理解し、市内においてもニーズを感じている。設置に向けての調査・研究を行う。	(19)不登校児童生徒への対応の充実
22	フリースクールとの連携とか、外国人学校との連携など、居場所を探している子供たちへの支援の施策を考えてほしい。またそれに関連して、切れ目のない支援体制の一つとしてスクールソーシャルワーカーの配置を検討してほしい。	(13)で反映。 スクールソーシャルワーカーの配置について進めていく。	(13)特別支援教育の充実
23	「郷土の文化財の保存と継承」というまなびの柱が設定されているが、そこに「活用」という言葉を入れた方がよい。例えば、他市では伝統文化、文化財の保存活用継承、魅力発信という言葉が入っているところもあり、今後このような視点も必要ではないか。	(5)に反映。	(5)郷土の文化財の保存と継承
24	魅力発信という部分は、観光資源としての活用という視点が入ってくる。保存継承と矛盾しないような表現を検討してほしい。		
25	「市立特別支援学校(小中学部)の整備」という施策があるが、どのような施策なのか確認したい。		
26	「市立特別支援学校(小中学部)の整備」という施策に、インクルーシブ教育という視点は含まれているのか。	(13)で反映。	(13)特別支援教育の充実
27	田原市では、県立福江高等学校の施設を利用して、特別支援学校の分教室を設置しており、すべての子供が地域の中で学校に通える、すべての子供が地域で学ぶということを目指したものであり、蒲郡市でも同様の方向性で考える。		
28	博物館所管の事業の中で、「まなび」の柱(15)生涯学習の推進 に位置付けられるものはないのか?	(20)①を追加。	(20)社会教育の推進
29	「蒲郡市総合計画」の「郷土の文化財の保存・活用と継承」に「図書館における郷土資料の閲覧や、調べ学習が簡単に行えるようレファレンス機能の充実に努めます」とあるので、この点に関する事業を、「まなび」の柱(20)に位置付けられないか	(5)③で反映。	(5)郷土の文化財の保存と継承
30	海辺の文学記念館の事業は今回の計画に位置づける必要はないのか? *教育委員会管轄外だが、条例では「観光拠点竹島を中心とする蒲郡の文学、歴史その他の文化的な資料を展示する施設」とあり	(6)②で反映。	(6)郷土愛を育む学習
31	蒲郡市内の幼児教育の現場において発達に気がかりな幼児や加配の必要な幼児に対する受け入れを行い、教育ができる園をもっと増やしてほしい。幼児教育期間での支援に力を入れて早期に対処すれば、小学校に上がった段階での支援の負担は確実に減る。	(13)④を追加。	(13)特別支援教育の充実